

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴

圏域人口：64.155人
高齢者人口：15.772人
高齢化率：24.58%

建て替えや新たな開発でセキュリティの高い高層住宅が増えている。若い層の入居があり、高齢化率は減少傾向にあるが、高齢者数は増えており後期高齢者数も多い。坂道などアップダウンの多い圏域でもある。

センターの取組方針や特徴

【センターの運営方針】

・豊中市地域包括支援センター運営方針に沿って事業計画を立て取り組みを行っている。
「地域包括ケアシステムの構築」を目指し、職員のスキルアップをはかり、ネットワークの構築や住民主体の活動などをサポートしていく。

【特に力を入れて活動している点】

・人と人、人と場所など ゆるやかな つながり(連携)をベースにして活動を行っている。
地域ケア会議(個別・校区毎)や虹ねっこの多職種スキルアップワーキンググループでの活動など多職種連携や関係機関、地域住民とのつながり作りに取り組んでいる。

【活動の中での課題やその解決策】

課)介護保険の基本理念に立ち返ること。

解)地域ケア個別会議やプラン委託などの活動を通じて介護保険事業所への意識付けをしていく。また、それを通じて利用者への意識付けを行う。

解)地域教室や総合相談、通いの場作り支援などの活動を通じて地域住民への普及・啓発を行う。

課)地域住民が“わがこと”と捉えられること。

解)これまでの事業活動の関係性を保ちながら、関係機関だけではなく、地域のスーパーやコンビニ他多様な資源に目を向けて広報・啓発・連携をはかっていく。認知症サポーター養成講座もこれまでは高齢者を支援する側へ行うことが多かったが、高齢者自身にも認識していただけるよう講座開催場所を検討し実施していく。

【その他】

・通いの場作り支援事業(とよなかパワーアップ体操)の普及・啓発・立ち上げ支援について。29年度当初から手を上げる住民があり、積極的に支援を行った。圏域内10箇所の立ち上げ支援が行えている。また、これも地域資源として活用できるよう働きかけを行っている。

総評

前回の外部評価の内容を踏まえ、業務内容が改善されています。事業計画において、前年度の実績を振り返り、詳細な事業計画の変更を実施しており、高齢者が集まる場所を主眼に活動しています。今後は、記録の記載内容の見直しや、研修計画の策定などの取組が望まれます。

好事例

認知症サポーター養成講座を市民に身近なものとして認識してもらえるような取組がなされていました。また、高齢部会の運営においても、関係機関だけではなくコンビニやスーパーにも参加を呼びかけるなど、高齢者が地域で集まる場所を主眼において取組を進めています。